平成２１年度 経営評価及び意見について

（報告）

平成２２年２月

国際児童文学館 経営評価委員会

国際児童文学館 経営評価委員会

委員長　須　田　　寛
委　員　須　藤　健　一
同　中　村　桂　子
同　原　　昌

大阪府立国際児童文学館及び財団法人大阪国際児童文学館の平成２１年度施設及び事業の経営評価並びに主な意見は次のとおりです。

記

１．総合評価

評価区分　　Ａ　　顧客満足度が高い

２．国際児童文学館経営評価委員会での主な意見

（１）事業目標の設定の仕方及び評価について

・この評価結果は、来年度からの新体制に引継いでいただきたい。
なお、新体制は在来の特色を維持発展させる努力をし、何時の日かの復活に備えること。また、これまでの実績を埋れさせないようすること。

・館の‘国際化’という観点から、事業の一つとして、外国（とくに先進国）での子どもの読書状況や読書推進活動などについての情報蒐集（発信）と、その評価を加えてもいいのではないか。

・閲覧者数２０４％、コピー数２６２％など閲覧事業は目標を大幅に上回り、こども室業務も同様である。
全体として活発に活動されたと思う。

（２）評価に関連して提起された課題

・全体的に高い評価をあげているのに、絵本グランプリの応募者の減少は広報の問題か、それとも他の要因か、慎重に対策を練る必要がある。
・館の特徴であるはずの研究紀要、他機関との連携の自己評価が低い。困難な環境かもしれないが、自ら発信していくところの積極性や自信が組織の存在価値をつくる。これは大事なことである。

（３）まとめ
・大阪府立国際児童文学館は廃止されるが、財団は新体制を築き、これからも子どもの本を通じた子ども文化の振興を図るため、一層の努力を求めたい。